大山町御来屋地区における事前復興を考慮した地域防災のための取り組み

大山町　○金田　啓介
鳥取大学　正会員　黒岩　正光
鳥取大学　浅井　秀子
岡山市　瀧本　智之

１．はじめに

東日本大震災や熊本地震．最近では鳥取県中部地震などの地震災害が多発している．また，南海地震に対する防災・減災対策は喫緊の問題であり，発災後の復旧から復興まで，いち早く地域における生活を取り戻し，さらに地域を次世代に継承するといった視点も重要である．このような背景から，事前復興を考慮した地域防災計画の検討が必要不可欠といえる．本報では，事前復興に関する取り組みとして，比較的防災意識の高い大山町御来屋地域を対象モデル地域として事前復興擬訓練を試みた．

２．大山町御来屋地区の概要とこれまでの取り組み

御来屋地区は鳥取県西部の大山町の中心地区である．御来屋地区は日本海に面した地域であり漁業も盛んである．また，御来屋漁港や後醍醐天皇が隠岐の島から脱出したどり着いた場所としても有名であり，大山町の観光資源としても重要な地区である．同地区では平成 18 年 4 月には 1559 人であったのが平成 28 年 4 月には 1327 人と減少し，高齢化率 38%である．また，鳥取県津波対策検討委員会の報告（平成 24 年度）によると，同地区では，6mを超える津波が来襲するとされており，防災意識の高い地域である．そのようなことから，「支え合いのまち御来屋」という自主組織にある安全安心部会が主体とする避難訓練が平成 23 年度から実施されている．この訓練では，主に自宅から避難所への移動，避難所での炊き出し訓練，ダンボールによる避難所暮らし模擬体験などを実施してきている．しかしながら，毎年実施しているものの参加者が限定され，若年層の参加が少ないなどの問題がある．そこで，平成 24 年度から鳥取大学学生による津波の伝播，地震動模型の実演やパネル説明などによる出前防災教育やＨＵＧ体験を実施し新たな試みを行っている．

３．事前復興まちづくり模擬訓練

復興模擬訓練とは災害発生から復興まで長期間の状況を想定した訓練である．例えば，まちあるき，避難所から復興を考える．仮設市街地を考える，復興まちづくりを考える，という流れであるが，今回は，愛知県が実施した事前復興まちづくり模擬訓練を参考に２回の訓練を実施した．訓練１として「まちあるき」，訓練２として「復興まちづくりを考える」を行った．紙面の都合上，訓練２の結果について報告する．

訓練２は，平成 29 年 1 月 22 日（日）に実施した．地域の方々35 名，学生 7 名が参加し，４班に分かれて行った．まず，復興や生活再建についての事前学習を行い，次に２者択一式の復興問題カード（表-1，図-1）について各自回答し，全員が解き終わり次第，復興問題カードをもとに話し合いを行いその結果を発表した．なお，復興問題カードは，2012 年に東京都豊島区池袋本町で実施された「池袋本町地区震災復興まちづくり訓練」の内容を参考に作成したもでのである．また，すべての問題に理由を記載する欄を設けている．表-2 は問題に対して回答した結果を示したもので，例えば問題１のように，避難所の部屋割りに積極的に協力するとほぼ全員が①に回答した場合，問題 7 のように，後継者がいない商店では，ほぼ全員が災害後店舗は閉めると回答したいった場合は，その意見にそのまま問題なく従うことが可能であろうと思われる．一方，意

キーワード　防災，事前復興，　まちづくり
連絡先　〒680-8552　鳥取市湖山町南 4-101　鳥取大学大学院工学研究科　社会基盤工学専攻
ＴＥＬ0857-31-5299

見が対立した場合，様々な検討が必要である．以下に意見が対立した例を示す．

問題５：①に対して「自分でアパートなどを探すのは大変，入居できるなら遠くてもよい」，「できるだけ早い住まいの確保が大切」，②では「できるだけ地元にいたい」という意見が挙げられた．

問題６：①では「家族単位でならすぐに入居したい」，「ちゃんとした生活の場を早く確保すべき」，「被災地に近くは２次災害など危険であり，まずは家族の命が一番大切」，②では「遠くに行ってしまうと，地元の情報が手に入らなくなるのではないか」，「できるだけ御来屋の近くにいたい」という理由が挙げられた．

問題１０：安全性を高めることを優先すべきである」という意見に対して「御来屋の街並みは残していきたい」，「特殊な街並みなので大切にしたい」といった意見が挙げられた．しかし，「御来屋の街並みは残したいが防災面も強化したい」，「実際に被災してみると安全性重視の考え方になるのかもしれない」といった意見があった．この問題に対しては，住民と行政との復興のイメージの共有が非常に重要である．

最後に，問題１１事前に防災まちづくりについての問題に対して，①の「危険なので，積極的に防災まちづくりをすすめるべきだ」という選択肢を選んだ人がほとんどで，「自分たちの身は自分たちで守られるようにしておくべき」，「空き家や古い家が多く早く対策するべき」，「備えあれば患いなし」といった意見が挙げられたが，「実際住んでいる住民には経済的な問題もある」，「実際に被害が出ないと積極的に人が動かないのでは」といった意見もあり，事前復興まちづくりに対する消極的な意見もあった．

問題 1. 避難所の部屋割り
避難所は３日後でも避難 者で満員です．「子供や女性用の 部屋をつくるので移動してほしい」と委員が言ってきました．
①積極的に協力して移動する
②折角落ち着いたのに渋々

問題５．仮住まいの確保（１）
応急仮設住宅の建設が遅れて， 入居は数ヶ月以上かかりそうで す．あなたは家族連れの被災者，どう対応しますか？
①遠隔地でもよいので応急仮設住宅ができて入れるまで待つ
②知り合いやアパートなど地元近くでがんばって探す

問題６．仮住まいの確保（２）
地域でまとまって，遠くの仮設住宅に入居するか？近くにできるのを待つか？
①遠くでもよいから早く仮設住宅に入居したい
②時間はかかってもよいので御来屋の近くに仮設住宅ができるまで待つ

問題７．商店の復興
あなたは，店舗を経営している高齢者で，跡継ぎはいません．震災で被災し，これを機会にお店をどうするか悩み中です．
①復興の支援制度をつかって， 店舗を再建する
②店舗は閉めてしまう．

問題 10. 復興後の街並みイメージ
震災後，町から火災に弱いまちを再現しないよう，区画整理で敷地を出し合って道路を拡げて４，５階建ても建つような計画で復興をしたいという提案がありました．あなたはどう思いますか？
①仕方がないと思うので，その方向で賛成する
②他の方法や御来屋の街並みの良さがあると思うので賛成できない

問題 11. 事前に防災まちづくり
この地区は，地震が来る前に防 災まちづくりが必要という意見があります．どう考えますか？
①危険なので，積極的に防災 まちづくりをすすめるべきだ
②住民それぞれに事情があり 急がない（被害がでたら復興）

図-１　復興問題カードの例

表-1　復興問題カードの項目

１．避難所の部屋割り（１）
２．避難所の部屋割り（２）
３．遠くの親戚が呼びにきた
４．被災したお年寄りの支援
５．仮住まいの確保（１）
６．仮住まいの確保（２）
７．商店の復興
８．地域の復興委員に応募
９．復興準備の時期
10．復興後の街並みイメージ
11．事前に防災まちづくり

表-２　回答結果

	①	②
問題１	34	1
問題２	31	4
問題３	28	6
問題４	13	12
問題５	15	14
問題６	17	13
問題７	1	30
問題８	22	8
問題９	24	5
問題１０	15	13
問題１１	23	5

４．おわりに

事前復興まちづくり模擬訓練を行った結果，事前に復興後のまちづくりを考えることについては比較的積極的であるものの，被災した高齢者の支援や仮住まいの確保，復興後の町並みのイメージに対しては意見の対立が見られた．意見の対立がある場合，代替案の検討や行政を交えての議論が必要であると考えられ，新たな事前復興訓練の方法など検討する必要があると考えられる．

最後に，本報で紹介した事前復興模擬訓練は，平成２８年度　鳥取大学地域志向教育研究事業（地域課題研究Ａ（調査型））の一部であること付記する．

参考文献　井若ら(2014)：持続の危ぶまれる地域での住民主体による事前復興まちづくり計画の立案初動期の課題と対策，地域安全学会論文集 No.22